Press Release

報道関係各位

2026年11月10日

大学生が地域課題の解決策を提案する「クラチャレ ピッチアワード 2026」を開催、新潟県佐渡市チームが優勝。
～7グループの大学生が発表 会場・オンラインで計103名が参加～

株式会社クラダシ（本社：東京都品川区、代表取締役社長CEO：河村晃平、以下「クラダシ」）は、**2026年10月30日(金)**に「クラチャレ ピッチアワード **2026**」を開催し、その全発表内容をアーカイブ映像および開催レポートとして公開いたしました。当日は、社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ（以下「クラチャレ」）」に参加した学生**27**名が**7**グループに分かれ、各地での現地活動をもとにした地域課題の解決策を発表し、審査員評価とオーディエンス投票の結果、新潟県佐渡市で活動したグループの『佐渡ロップ（**ROP**） **Recycling Off-grade Produce**』が優勝いたしました。

▽アーカイブ映像（**YouTube**）：https://www.youtube.com/watch?v=aRRg8bCkJLc
▽開催レポート（**note**）：https://note.com/kuradashi/n/n0ca1eafca0d8



■「クラチャレ ピッチアワード **2026**」開催概要
・日時　　：2026年10月30日(金)　13時00分～17時30分
・開催場所　：TIME SHARING 新橋駅前（東京都港区新橋2-18-2 新橋東口ビル 5F）
・参加者数　：計103名（会場60名、オンライン43名）
・プログラム　：
　・13:00-15:00　学生ピッチ
　・15:15-15:40　結果発表
　・16:00-17:30　交流会

【本件に関するお問い合わせ】
広報担当：齋藤　pr@kuradashi.jp

・審査員　　：
・農林水産省 食品ロス・リサイクル対策室 課長補佐　細川 仁 氏
・環境省 環境再生・資源循環局 資源循環課 主査　小田戸 聡 氏
・積水ハウスホテルマネジメント株式会社
フェアフィールド・バイ・マリオット 道の駅プロジェクト
マーケティング部 部長　中本 陽子 氏
・食文化研究家／株式会社食の会 代表取締役　長内 あや愛 氏
・株式会社クラダシ 代表取締役社長CEO　河村 晃平

■「クラチャレ ピッチアワード」とは
「クラチャレ ピッチアワード」は、日本全国のいずれかの地域で1～2回現地活動を行い、終了後も地域課題の解決に継続的に取り組むクラチャレ年間プログラムに参加した学生による、最終合同報告およびピッチコンテストです。
参加学生には現地活動から得た知識と感動をもとに、対象地域が現在抱えているさまざまな課題の解決を目指す提案をまとめ、ピッチコンテスト形式で発表いただきます。当日発表された提案の中から、審査員とオーディエンスによる投票で「最も実施してみたい施策案」を1グループ表彰いたします。本アワードでは、単なる提案だけでなく、実現可能なアイデアや実行のための取り組みに焦点を当て、クラチャレ終了後も学生と自治体、事業者などの継続的な連携を促進していきます。

■優勝グループについて
【発表グループ】
グループ①（新潟県佐渡市） 学生4名
施策名：『佐渡ロップ（**ROP**） **Recycling Off-grade Produce**』

【施策概要】
佐渡の特産「おけさ柿」など、規格外として流通しにくい農産物に着目。自治体が中心となって農家・加工場・売り場をつなぎ、規格外農産物の取引を促す仕組みを提案しました。現地活動では、第一弾として「おけさ柿スムージー」を学生自ら試験販売し、収支の検証まで行いました。

【評価ポイント】
・ 親和性：おけさ柿の規格外品という地域ならではの課題に、フードロス削減の視点で向き合ったこと
・実現可能性：現地での試験販売を通じて、収支面の裏付けを示したこと
・熱量：受け入れ農家の想いを反映させた提案だったこと

優勝グループには、積水ハウスホテルマネジメント株式会社より「フェアフィールド・バイ・マリオット 道の駅ホテル」の宿泊券が贈呈されました。

＜受賞グループ 学生のコメント＞
「毎日練習を重ねてきたので、受賞できて本当にうれしいです。スムージー販売を受け入れてくださった農家のみなさま、佐渡市役所をはじめ、活動を支えてくださった多くの方々に感謝しています。」

【本件に関するお問い合わせ】
広報担当：齋藤　pr@kuradashi.jp



■審査員コメント
・農林水産省 食品ロス・リサイクル対策室 課長補佐　細川 仁 氏
「耕作放棄地や担い手不足、農家所得の確保といった避けて通れない重要課題に独自の視点で向き合ってくれたことは、私たちにとっても大きな気づきでした。審査結果はごくわずかな差です。受賞の有無にかかわらず、日本の農業の未来に向けてそれぞれの挑戦に邁進してください。」

・環境省 環境再生・資源循環局 資源循環課 主査　小田戸 聡 氏
「カーボンニュートラルやネイチャーポジティブ、循環経済といった課題は、国だけでなく一人ひとりの行動が不可欠です。皆さんが主体的に考えてくれたことに大きな意義を感じます。今回の経験を一過性にせず、今後も複眼的な視点で考え続けてもらえると嬉しいです。」

・積水ハウスホテルマネジメント株式会社 フェアフィールド・バイ・マリオット 道の駅プロジェクト マーケティング部 部長　中本 陽子 氏
「私自身も全国29拠点で地域ビジネスを展開していますが、正解のない試行錯誤の連続です。地域の方と語り合い、その魅力を知って共感の輪を広げていく喜びは、何物にも代えがたい財産になります。今回の活動で得た経験や楽しさをぜひ今後に活かしてください。」

・食文化研究家／株式会社食の会 代表取締役　長内 あや愛 氏
「後継者不足など地域の壮大な難題に、真っ向から挑む姿勢が本当に素晴らしかったです。熱量や共感度はどのチームも満点だと思います。点数のわずかな差は、実現性や資金繰りといった解像度の違いに過ぎません。大人になってもこの熱い思いを持ち続け、一緒に地域の未来を作っていきましょう。」

・株式会社クラダシ 代表取締役社長CEO　河村 晃平
「クラダシチャレンジへの参加を通じて、全員が「楽しめた！」と手を挙げてくれた姿を見て、皆さんの圧倒的な熱量を感じ、企画側として本当に感無量です。一過性のブームで終わらせず、流れを変えて文化（ムーブメント）へ昇華させることが大切だと感じています。現地で得たその熱い思いをぜひ大きなムーブメントへ広げてください。」

【本件に関するお問い合わせ】
広報担当：齋藤　pr@kuradashi.jp

■各グループの提案

グループ（活動地域）	施策名	施策概要
① 新潟県佐渡市	佐渡ロップ（ROP） Recycling Off-grade Produce	自治体が農家・加工場・売り場をつなぎ、規格外農産物の取引を促す仕組み
② 沖縄県石垣市	石垣島 収穫体験ツアー　～観光から、企業研修を受け入れる島へ！～	家族向け収穫体験ツアーで受け入れ体制をつくり、将来は食品企業の新人研修へ広げて新規就農者の所得と販路を確保
③ 京都府京丹波町	京丹波ベンチャーズ	町のイノベーションラボの支援のもと、学生チームが企画から運営・振り返りまでを担い、継続的な関係人口を生む
④ 北海道仁木町	仁木フルーツホッピング	果物狩りなどの体験と周遊バスをまとめて予約できる、車がなくても楽しめる周遊プラン
⑤ 島根県益田市	「いってかえり」農業プロジェクト	市内の中学生が農繁期に農作業体験と地域の大人との座談会を行い、人手不足の解消と地域への愛着づくりを図る
⑥ 和歌山県すさみ町	「やりたい」が町を作る すさみシェア&チャレンジテーブル	「すさみ地域食堂」を活用したシェアテーブルと、関係人口が参加できるコミュニティで、食堂の持続性を高める
⑦ 鹿児島県和泊町	推しに会いランド	観光客が島民の中から「推し」を見つけて交流する新しい観光。ガイドブックとファンクラブで再訪を促す

クラダシは今後も、産官学連携を通じて単なるアイデア提案にとどまらない「現場への実装」と「継続的な協働」を後押しし、一過性で終わらないムーブメントと持続可能な地域社会の実現を目指してまいります。

■「クラダシチャレンジ」とは
クラダシは、ミッションを「善いビジネスで 未来に実りを。」、ビジョンを「日本一のインパクト企業グループへ。」と掲げ 、世の中に山積するさまざまな社会課題を価値へと転換し、社会・環境・経済へ確かなインパクトをもたらす事業を展開しています。

フードロス削減が循環する「善い食事業」として、ソーシャルグッドマーケット「Kuradashi」を運営し、賞味期限が切迫した食品や季節商品、パッケージの汚れやキズ・自然災害による被害などが原因で、消費可能でありながら通常の流通ルートでの販売が困難な商品を買い取り、おトクに販売しています。また、その売り上げの一部でさまざまな社会貢献活動を支援しています。
さらに、クラダシが自ら社会貢献活動を行うために創設したクラダシ基金（※1）を活用して地方創生事業にも取り組んでおり、その取り組みの1つとして、社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」（※2）を実施しています。

【本件に関するお問い合わせ】
広報担当：齋藤　pr@kuradashi.jp

クラチャレは、フードロス問題や地方創生に関心のある学生が日本各地の地域や農家を訪れ、作物の収穫支援や現地での交流を通じて一次産業や地域経済の活性化について考えるインターンシッププログラムです。
参加学生は担い手として未収穫の農作物を収穫し、フードロス削減に貢献しながら地域とつながる機会を得ます。クラチャレを通じて、地域の関係人口の創出・拡大や魅力発信を図るとともに、学生に実践的な学びの場を提供し、地域社会の持続的な発展を目指しています。また、参加学生の旅費や滞在費、食費等はクラダシ基金から拠出しており、2026年9月末時点で計79回開催しています。

※1 クラダシ基金とは:
クラダシ自らが社会貢献活動を行うために創設した基金で、「Kuradashi」における支援先の1つです。地方創生事業・フードバンク支援事業・教育事業・食のサステナビリティ研究会の社会貢献活動に充てられています。
※2 クラダシチャレンジについて:https://kuradashi.jp/pages/kurachalle

■楽しいお買い物で、みんなトクするソーシャルグッドマーケット「**Kuradashi**」とは
Kuradashiは、楽しいお買い物で、みんなトクするソーシャルグッドマーケットです。
フードロス削減を目指し、まだ食べられるにもかかわらず捨てられてしまう可能性のある食品などを、おトクに販売しています。
さらに、売り上げの一部を環境保護・災害支援などに取り組むさまざまな社会貢献団体への寄付やクラダシ基金として活用し、SDGs17の目標を横断して支援しています。
楽しくておトクなお買い物が、社会に良いことにつながる。そんな、全く新しいソーシャルグッドマーケットを創出しています。
URL:https://www.kuradashi.jp/

■クラダシ **Impact**:利益を社会に巡らせる
自ら社会貢献活動を行う「クラダシ基金」を通じ、地方創生やフードバンク支援、教育支援など、利益の一部をさまざまな社会課題の解決へ還元していきます。https://corp.kuradashi.jp/impact/

■株式会社クラダシについて
代表者氏名:河村晃平
設立:2014年7月
本社所在地:〒141-0021 東京都品川区上大崎3丁目2-1 目黒センタービル 5F
URL:https://corp.kuradashi.jp/

【サービス紹介】
・ソーシャルグッドマーケット「Kuradashi」:https://www.kuradashi.jp/
・クラダシが自社で運営する「クラダシ基金」:https://www.kuradashi.jp/fund
・冷凍宅配弁当「Dr.つるかめキッチン」:https://tsurukame-kitchen.com/
・オンライン料理教室「La Table de SHIORI Online」:https://online.atelier-shiori.com/
・物流代行サービス:https://logistics-kuradashi.com/

【店舗一覧】
・Kuradashi店舗一覧:https://kuradashi.jp/pages/stores

【クラダシのインパクト】
・インパクトサイト:https://corp.kuradashi.jp/impact/
・Impact Report2026:https://speakerdeck.com/kuradashi/kura-dashi-impact-report-2026

【本件に関するお問い合わせ】
広報担当:齋藤　pr@kuradashi.jp

【2026年6月末時点の主な累計実績】
・フードロス削減量：35,287トン ・経済効果：171億6,857万円
・CO2削減量 ：93,545t-CO2・支援総額：194,051,084円
ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
「Kuradashi」、「ソーシャルグッドマーケット」、「1.5次流通」、「もったいないを価値へ」は株式会社クラダシの登録商標です。

【本件に関するお問い合わせ】
広報担当：齋藤　pr@kuradashi.jp